

# いの流水俳壇

間 浩太選

## 「当季雑詠」

沖を行く台風付きの恵み雨

岡村 嘉夫

(評)台風は人間だけでなく動物・植物も恐れ、近くへ来ないように願っているものです。

台風は大きな空気の渦巻であり暴風雨は、その渦巻の中心付近が強く、移動していく。

高知県は、ここ数年台風が上陸又はごく近くまで来たことがなく幸いである。

しかし、台風は多量の雨を連れて来るので、夏から秋に雨の少ないときはこの雨が、この句のように恵みの雨となる。

農家に水を与え、水力発電所で多くの電気を発生し、ダムには多量の水を溜める。

また大きな台風は、地球の周囲の空気を大きく変動して、天候の調節をするのに必要との意見を聞く。

今年、いくつかの台風が予想では高知県に上陸しそうであったが、この句の作者が言うとおり、高知県の沖を通過したので、大雨であったが被害は小さく雨は恵みの雨であった。

この作者の「台風付きの恵みの雨」の言い方は良い言葉で感心しました。

台風は、南洋や南シナ海などに夏から秋にかけて多く発生し、日本近辺を襲来するが過ぎれば、あとは秋晴れの好天気となる。

稲刈るや丸田の次は三角田

竹崎 光子

(評)十月は稲刈りの季節である。早稲はすでに九月には刈られるが、大部分の稲は十月に入ってからである。

山峡の地の棚田は大きさ(広さ)も形もそれぞれ、まちまちである。長方形が多いとは思いますが、この句の丸田や三角田の中にはあり、面白い俳句で楽しい句である。

話に聞くが、田植えが終わったあとで、田の枚数を数えたら、一枚足りないもので、よくよく見れば、日笠の中に一枚あったとか。日よけ用の蓑の下に一枚隠れていたとか。面白おかしい話だが、少しでも田が欲しい気持ちの表れである。

この句の稲刈りで「丸田の次は三角田」と、面白みのある句で丸田とか三角田との言い方は初めて聞きました。

棚田は、先祖が汗と涙で作ったものであり、それが休耕田や捨て田になるのは残念でしたが、最近は見直されて、棚田のイベントもあちこちで行われ、関心が深まったのは嬉しいことです。

海鳴を遠くに宿の菌鍋

片岡 包女

(評)この句は、作者が旅行のとき、海からあまり遠くない山の麓か中腹にある宿での句でしょうか。

菌(茸)は種類が多く茸の中の代表格は、松茸で香りが高い。

椎茸・しめじ・なめこなどの菌鍋でしよるか。風味があり山家料理の一つとして珍重される。

むかご飯一握りほど有ればよし

津田 久美

(評)むかご(零余子)は、自然薯や長薯に、秋になると蔓の葉の際にできる指頭ぐらいの大きさの褐色の実のようなものです。中には大きいものもある。

この零余子を炊き込んだ飯で、山家料理の一つで野趣がある。この句の作者は、一人住まいであり、食事の量も多くは足りないのに、零余子飯にしても零余子は一握りほどあればよいとのことである。

昔、時々、零余子飯を作り、山家の料理を楽しんだ思い出が懐かしく、零余子飯を炊いたときの句と思いました。

先をゆく人の木の实を踏める音 岡本とも子  
それぞれに幸もたらせて今日の月 田蔦恵美子  
平凡な暮らし好きなり秋刀魚買う 小野川町子  
懸命に咲いて露うく紫苑かな 竹崎たかひろ  
祖母の世のまつばり畑柚子実る 川村 博子  
時刻む古き振り子や秋の音 大川 節弥  
出席に丸して返信大根時く 井上 郁子  
こおろぎの鳴く音しみる秋の暮 松尾満津於  
秋の日の思い出語る三回忌 森岡 照月  
この道を征きしか学徒曼珠沙華 友草 水月  
寄りそひて一すぢ道の秋桜 弘瀬うき子  
鯛雲父祖の知らざる土地に棲み 伊藤 萩甫  
青とかげ小さい地蔵の目に遊ぶ 間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句  
締め切り 毎月五日

投句先  
社会教育課

いの町3597  
893-2012

有料広告

## やまおか眼科

院長 山岡 昭宏

吾川郡いの町新町20-1

TEL (088)893-5161

手術日 火曜午後

休診日 木曜午後、

第1・3・5土曜日午後、日・祝日

**P**(駐車場)変わりました  
敷地内6台ほか  
近隣契約駐車場数台